

# 政治家の本分

民主党・参議院議員

辻 泰弘

昨秋から、参議院厚生労働委員会の民主党筆頭理事に就任。責任の重さを痛感している。

政治の世界に入って25年。その間、政策課題に本格的に取り組めた時期には、独自の手法で当該分野の「推計」を作り上げてきた。

20歳代の8年間は、議員会館の一隅で、財政・税制などの政策立案に従事。昭和50年代後半には、大蔵省の「財政の中期展望」に対抗し財政の将来推計を手計算で行った。国債の償還、借換、利払費などを推計。財政の将来展望を示した上での政策提言を予算委員会などで所属議員にして頂いた。同推計には、主計局からも精緻だと高い評価を頂戴した。

37歳から39歳にかけて在籍した医療経済研究機構では、厚生省の「福祉ビジョン」の向こうを張って国民負担の将来推計に専心。

国民経済計算における社会保障負担の構成要素全てを分析し、各々の財政の将来推計からはじき出した平成22年度の社会保障負担125兆円強は、厚生省の120～125兆円とほぼ近似。租税負担も税収弾性値を用いて推計。両者により国民負担全体を見つめることができた。

また、国民医療費の「推計」。実は過去の医療費統計を指すのだが、省庁が公開した医療保険などの統計をかき集め、所管する諸機関にも赴いて資料収集に奔走。

地方自治体の単独事業だけは統計が皆無で、全く手がかりがなかったが、それ以外は確たる根拠に基づいて、平成3年度の国民医療費を21兆7492億円と算出。厚生省の21兆8260億円の実績値にかなり肉薄した。そのお陰か、「医療経済研究者名簿」には今も名を留めさせて頂いている。

「官僚支配の打破」、「族議員の排除」とスローガンは勇ましいが、スローガンだけで現実社会は動かないし、人に幸せは訪れない。

政治主導を言う限り、政治家には官僚を凌ぐ努力と研鑽の積み重ねが不可欠だ。その上で、一定の理念の下に、あるべき日本の将来ビジョンを描き、国民に提示し選択を求めることこそが政治家の使命ではないか。かく申す私もその途上であることは言うまでもない。

本年はサル年。「見ザル、聞かザル、言わザル」が美德とも言われるが、「木から落ちてでもサル」であるサルとは異なり、「議員は落ちたらただの人」。サルには誠に申しわけないが、徹底的に「見て、聞いて、発言する」。これがサルとは違う政治家の本分と心得る。

年金改革など課題山積の本年。野党理事として大いに発言したい。与党の方々、闘いの日は近い！お屠蘇気分でご油断めされよ！